こうすりゃ～ええ農（のう） vol.17
Agricultural news

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員と地域おこし協力隊員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員　若山（わかやま）　譲（ゆずる）

秋冬野菜栽培の準備をしましょう！

秋冬野菜の播種（はしゅ）（種まき）・定植の時季が近くなってきました。ほ場の準備をきちんとして、高収量・高品質生産に努めましょう。

(1) 土作り

化学肥料ばかりで栽培を続けると土が硬く締まりやすくなります。堆肥の効果は急には現れません。累積効果が大きいので毎作施用し続けることが望ましいです。

土作りのために、よく熟した有機物を適正（1アール当たり200～300キログラム）に施しておきましょう。堆肥の過剰施用や、未熟な有機物の投入は、病害虫の発生を助長します。

(2) 湿害対策

水はけの悪いほ場では、あらかじめほ場の外側に溝を切ったり、高畝を作ったりして湿害対策をしておきましょう。

(3) 石灰資材を上手に使う

石灰の過不足で病気の発生が助長されることがあります。何年も石灰を投入していない畑ではやや酸性の土壌になっていることがあるので、石灰資材を投入しましょう（1アール当たり苦土石灰10～15キログラム）。

(4) あらかじめの病害対策

連作を避けるようにほ場を選びましょう。特にアブラナ科の野菜（ハクサイ、キャベツ、ブロッコリーなど）は連作をすると根こぶ病（※）などの土壌病害が多発する恐れがあります。

※アブラナ科野菜の根こぶ病対策

①毎作発生が見られるほ場では連作を避け、アブラナ科野菜以外の作物を3年以上輪作しましょう。

②育苗床の管理

▼床土は、山土または無病土を使用しましょう。

▼大苗移植をするときは、ペーパーポットまたはポリポット育苗をしましょう。

▼苗が軟弱になるため、過度に水をやったり、肥料を施したりしないようにしましょう。

③栽培ほ場の管理

▼石灰を施用し、土壌pHをあげましょう。殺菌殺虫効果が期待できる石灰窒素の施用も有効です。

▼ほ場衛生に心掛け、発病株の早期発見と除去処分をしましょう。

▼定植前の薬剤処理を行いましょう（ネビジン粉剤などの登録農薬）。

問い合わせ
農業振興課農業振興係
☎0824-73-1132

地域で「生き生き」獣害対策その一歩先へ！

地域おこし協力隊　草谷（くさたに）　夏枝（なつえ）

秋野菜を植える前に！

秋野菜を植える時季ですね。このとき、草刈りは早めにしておくのがポイントです。「時間がないから」と、苗を定植した後に周りの草刈りをすると、苗は行き場をなくした虫の格好の生活の場となり、被害に遭いやすくなります。

順番が大事なのは獣害対策も一緒です。まず最初に必要なのは「集落のみんなで勉強すること」です。

先日、イノシシによる水稲被害に遭っているお宅に伺いました。電気柵の電線はあるけれど本体はありませんでした。

「秋までに電気を流せば…」で集落の電気柵は効かなくなる

電気柵というものは、イノシシに「触ったけれど大丈夫だった」という経験を絶対にさせてはいけません。

電気はイノシシの鼻にしか効きません。イノシシは硬い毛で覆われているので、頭や背中などに電線が触れても効きません。イノシシが鼻で触るのは、視界に電線があり、「大丈夫だろうか」と探査したときだけです。電気がながれていないときに「これは大丈夫なもの」と学習してしまえば、電気柵は本来の効果がなくなります。そして、集落すべての電気柵が効かなくなってしまいます。

電気柵 鼻で触れなきゃただのひも

各地域での取り組みを紹介

各地域で「まずは集落みんなで正しい知識を身につけよう」という活動が始まっています。

市町中組

電気柵の正しい張り方をみんなで勉強し、集落の中の餌となる放棄果樹の位置や隠れ場となる場所をマップに書き込み、情報共有をしました。

口和自治振興区

主体的に獣害対策の講習会を企画。講習会に地元の猟師の話も取り入れ、イノシシ事情を学びました。

福田・元常自治会（比和町）

地域住民の交流の場として2カ月に1度行われるサロンで、農作物（家庭菜園）被害対策について話し合いました。

問い合わせ
商工林業課林業振興係
☎0824-73-1124